

ほっとらいん
ふろむ
ほんごう

2011年7月16日、 「日本在宅看護学会」が設立

7月16日、慶応大学三田キャンパス（東京都港区）において、日本在宅看護学会（仮称）設立総会が開かれ、集まった160名以上の参加者の賛同を得て、「日本在宅看護学会」(Japan Academy of Nursing for Home Care) が設立されました。

「やっぱり学会が欲しいね」という声が高まる

同総会ではまず、発起人代表として川村佐和子氏（静岡・聖隷クリストファー大学教授）が設立の趣旨を説明。日頃から訪問看護や在宅看護について語り合うなかで、「やはり学会が欲しい」という声が高まり、そのうちの26名が発起人となつて、このたび学会設立の提案をするに至った経緯を語り、在宅看護への社会



同学会理事長となった川村佐和子氏

的期待が高まるなか、「在宅領域における看護」に特化した学会をつくり、自分たちの役割は何かを打ち立て、確立していく必要を感じている」と述べました。その後、設立および会則（案）の承認が得られると、理事等の役員を選出。理事は次のとおり。理事長・川村氏、副理事長・佐野けさ美氏（東京・スギメディカル株式会社看護開発担当部長）。以下、理事（8名）：青木悠紀子氏（神奈川・悠

の本訪問看護ステーション所長）、阿部智子氏（東京・訪問看護ステーションけせら管理者）、木全真理氏（静岡・聖隷クリストファー大学大学院博士後期過程）、小池智子氏（東京・慶應義塾大学看護医療学部准教授）、椎名美恵子氏（訪問看護ステーションみけ所長）、高砂裕子氏（神奈川・南区メディカルセンター訪問看護ステーション管理者）、棚橋さつき氏（群馬・高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科准教授）、本田彰子氏（東京・東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科教授）。

これからの訪問看護サービス

総会後は、川村氏の基調講演「2025年の在宅看護の姿をデザインしよう!」、シンポジウム「これからの訪

問看護サービスの創出——社会共通資本としての訪問看護の行方」が行なわれました。

川村氏は、基調講演のなかで、新たな看護のあり方に関する検討会で、看護師が「療養生活支援の専門家」とされたことを紹介。まさにその専門家である訪問看護師の役割が、今後重要になることを確認。2025年の在宅看護の姿として、「社会に住む人々と手を組み、健康な生活の重要な担い手として街に根を張っている」とイメージしました。

シンポジウムでは、「在宅看護」を切り拓く「本田氏」「多職種協働における訪問看護師の役割」原口道子氏（東京都神経科学研究所）、「これからの訪問看護ステーション経営」田中滋氏（慶應義塾大学大学院経営管理科教授）、「長寿時代のまちづくりと在宅ケア」秋山弘子氏（東京大学高齢社会総合研究機構）の4人のシンポジストが登場。

原口氏は、間近に迫る「介護職員等によるたんの吸引等の実施の法制化」について、介護職との協働における訪問看護師の役割の重要性を指摘。この制度のなかで、訪問看護師に、「介護職員等」にたんの吸引等の研修を行なう講師や「介護職員等がたんの吸引等を実施する」登録事業者と連携する医療関係者の役割が求められていることを紹介しました。

◎ 同学会の理事でもある本田氏は、シン



160名以上の参加者を集めてのシンポジウム

ポジウムのなかで、専門職として「体系化された知識」すなわち「学問」が必要としたうえ、看護学とは「実践の知を伝える」「複数の実践知を融合させる」「小さい実践の知を大きくすることと定義。その根源には、「自分が大切にしてる専門領域に対する思い」探究心」があること、同学会を「在宅看護に関する」という「ああしたい」を実現するための集まり・活動にしたい」と述べています。今後、同学会に、訪問看護の実践知、現場の思いが集まり結実していくことが期待されます。第1回學術集會・総会は、本年12月11日（土）に、東京（会場未定）にて開催予定です。